

令和6年6月11日

子どもたちの学びを保障し、質の高い教育を実現するための環境について

第2回川西市立学校のあり方審議会 資料

前回の審議会の内容

審議会1回目のふり返り

- ① 川西市では子どもが減少傾向であること
- ② 統合が一旦白紙になっていること
- ③ 「教育大綱」を策定し、質の高い教育をめざしていること
- ④ 国の基準では標準規模が定められ、学級数に応じた教員が割り振られていること

学校のあり方審議会で議論する内容

「子どもたちの学びを保障し、
質の高い教育を実現するために」

①適正な学級規模・学校規模

②学校の適正配置について(通学時間・通学距離)

③特色のある教育について

④学校と地域の関係について

学校のあり方審議会で議論する内容

「子どもたちの学びを保障し、
質の高い教育を実現するために」

①適正な学級規模・学校規模

②学校の適正配置について(通学時間・通学距離)

③特色のある教育について

④学校と地域の関係について

議論のための共通認識

議論のための共通認識

適正な学級規模・学校規模

質の高い教育を実現するために適正だと考える学級規模と学校規模について、話し合います。

①学級規模とは、1クラスに在籍する人数

②学校規模とは、1つの学年の学級数

(特別支援学級を除く)

議論のための共通認識 【国の基準の考え方】

小学校・中学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

学校教育法施行規則

学校規模適正化に関する基本的な考え方【公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引き】

義務教育段階の学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています。このため、**学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になります。**そうした教育を十全に行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいものと考えられます。このようなことから、一定の学校規模を確保することが重要となります。

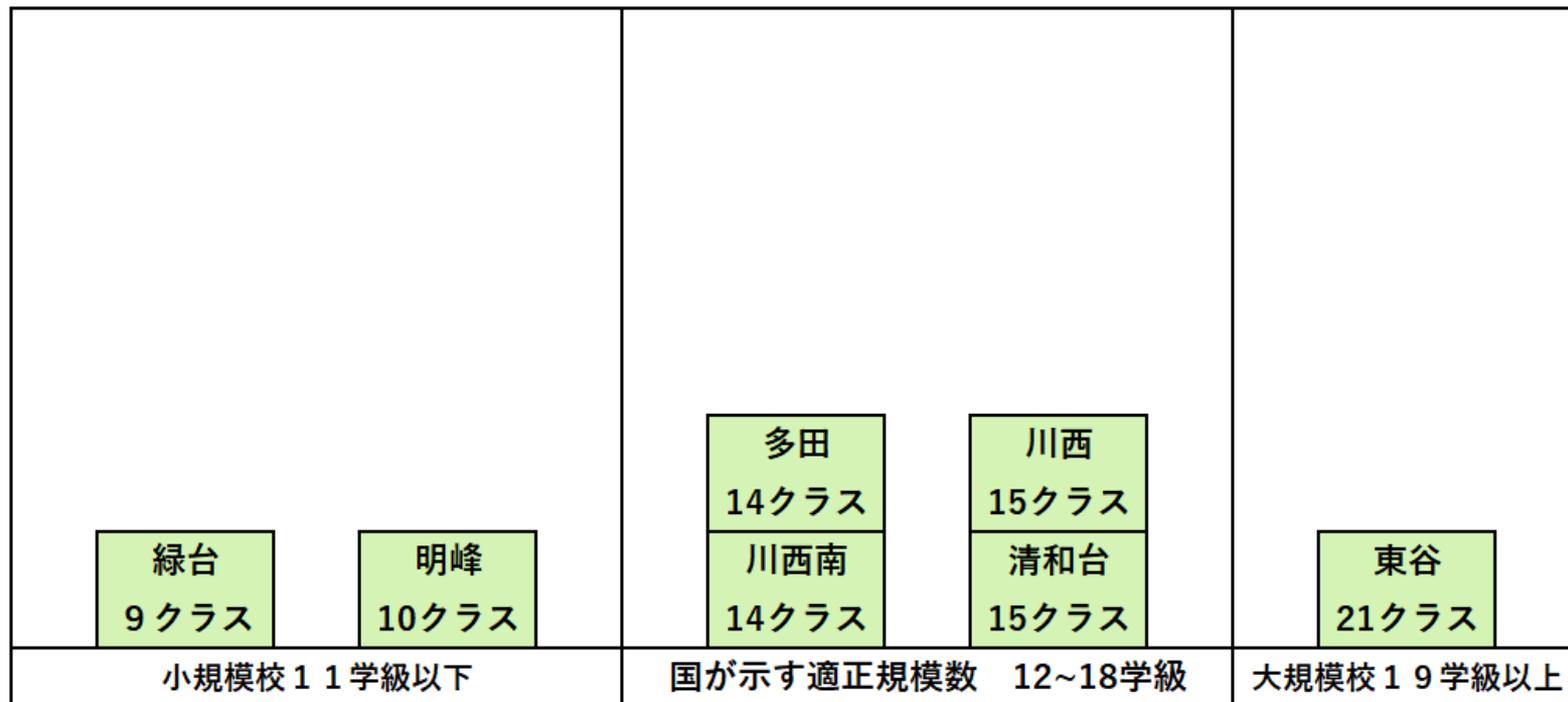
現在の学校別クラス数 小学校

参照:教育要覧

<table border="1"><tr><td>清和台南 7クラス</td></tr><tr><td>清和台 7クラス</td></tr></table>	清和台南 7クラス	清和台 7クラス	<table border="1"><tr><td>緑台 12クラス</td></tr><tr><td>陽明 12クラス</td></tr><tr><td>桜が丘 12クラス</td></tr></table>	緑台 12クラス	陽明 12クラス	桜が丘 12クラス	<table border="1"><tr><td>北陵 13クラス</td></tr></table>	北陵 13クラス	<table border="1"><tr><td>川西北 16クラス</td></tr><tr><td>久代 16クラス</td></tr></table>	川西北 16クラス	久代 16クラス	<table border="1"><tr><td>牧の台 17クラス</td></tr><tr><td>東谷 17クラス</td></tr><tr><td>多田 17クラス</td></tr></table>	牧の台 17クラス	東谷 17クラス	多田 17クラス	<table border="1"><tr><td>けやき坂 18クラス</td></tr><tr><td>多田東 18クラス</td></tr><tr><td>川西 18クラス</td></tr><tr><td>加茂 18クラス</td></tr></table>	けやき坂 18クラス	多田東 18クラス	川西 18クラス	加茂 18クラス	<table border="1"><tr><td>明峰 24クラス</td></tr></table>	明峰 24クラス
清和台南 7クラス																						
清和台 7クラス																						
緑台 12クラス																						
陽明 12クラス																						
桜が丘 12クラス																						
北陵 13クラス																						
川西北 16クラス																						
久代 16クラス																						
牧の台 17クラス																						
東谷 17クラス																						
多田 17クラス																						
けやき坂 18クラス																						
多田東 18クラス																						
川西 18クラス																						
加茂 18クラス																						
明峰 24クラス																						
小規模校 1 1 学級以下	国が示す適正規模数 12~18学級					大規模校 1 9 学級以上																

現在の学校別クラス数 中学校

参照:教育要覧



「すべての子どもたちに充実した学び、育ちを」
学級規模、学校規模を検討し、
質の高い教育環境の整備

- 1 子どもたちの学びを保障し、質の高い教育を実現するためには、集団で学び合う環境が必要です。そのため、子どもたちの学びにふさわしい、学級規模や学校規模を検討します。

議論のための共通認識【学校規模】

小学校・中学校の学級数は、**12学級以上18学級以下**を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

学校教育法施行規則

学校規模を検討する際、川西市として重視するのは、児童生徒の日々の学校生活につながる『**各学年の学級数**』とする。

小学校 『各学年の学級数』

標準規模・・・2～3学級

小規模・・・単学級

大規模・・・4学級以上

中学校 『各学年の学級数』

標準規模・・・4～6学級

小規模・・・3学級以下

大規模・・・7学級以上

適正な学校(学年)規模について

学校(学年)規模について

議論内容

学校(学年)規模について、国の基準では、

小学校 学年2～3クラス

中学校 学年4～6クラス

となっています。質の高い教育を実現するためにふさわしい学校(学年)規模はどの程度の規模だと考えますか。

議論の補助資料

前回のふり返し

学級数と教職員定員について【兵庫県】

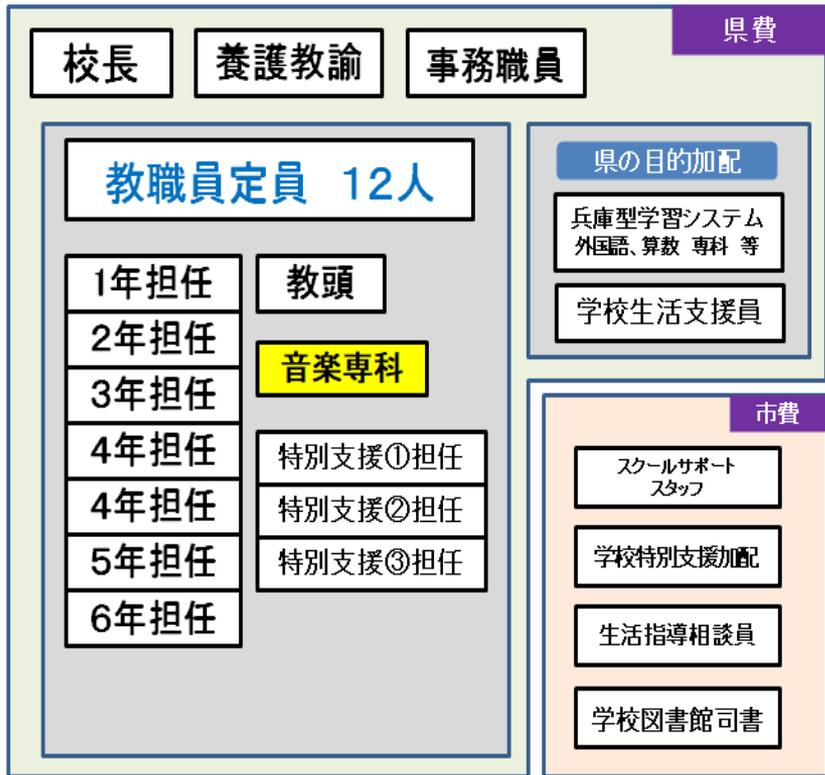
【小学校 教頭及び教諭数】 ※校長を除く

学級数	定員	学級数	定員	学級数	定員
1 CL	2 人	10 CL	12 人	19 CL	22 人
2	3	11	13	20	23
3	5	12	14	21	24
4	6	13	16	22	25
5	7	14	17	23	27
6	8	15	18	24	28
7	9	16	19	25	29
8	10	17	20	26	30
9	11				

学級数が増えると、教職員定員も増えていく。

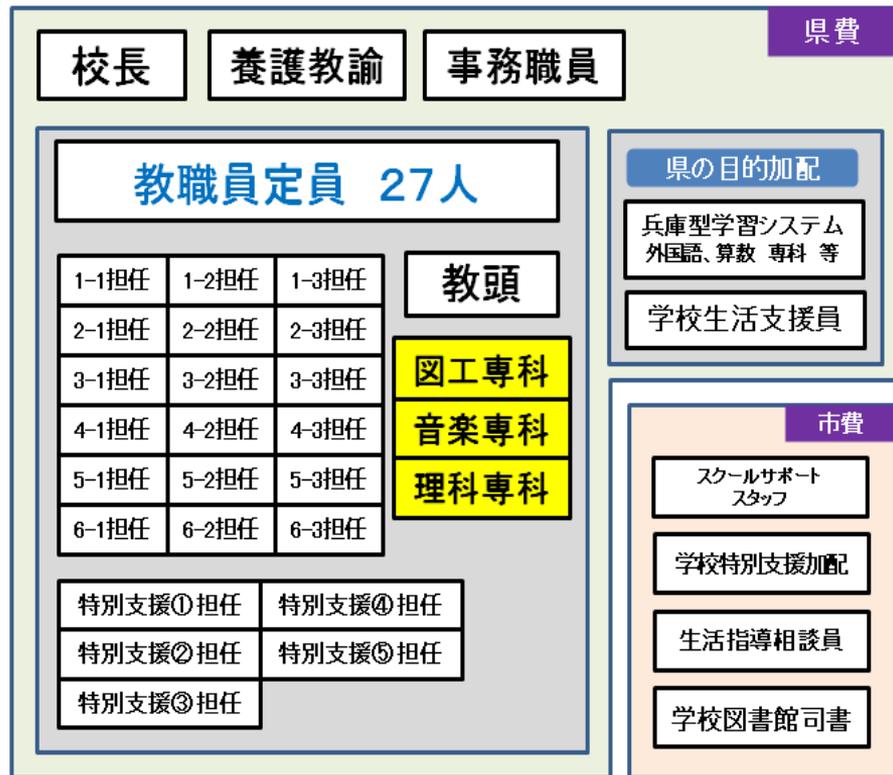
小学校教職員配置【小規模校】

通常の学級7クラス 特別支援学級3クラス
合計10クラス ⇒ 教職員定員12人



小学校教職員配置【適正規模校】

通常の学級18クラス 特別支援学級5クラス
合計23クラス ⇒ 教職員定員27人



小学校の校務分掌(例)

学校規模に関わらず、同様の校務分掌がある。教職員が少ない学校は、1人で複数の分掌を受け持つことになっている。小規模校では、1人5つ以上の校務分掌を担当している教職員もいる。

校務分掌		運営委員会	教科担当
①校内研究	⑬人権教育	①文化的行事	①国語
②教育研修	⑭特別支援教育	②体育的行事	②算数
③教育課程	⑮特別支援 コーディネーター	③儀式的行事	③社会
④校務支援システム	⑯生活指導	④校外行事	④理科
⑤あゆみ	⑰安全指導	⑤学年会計担当者会	⑤生活・総合
⑥情報教育	⑱保健指導	⑥教育支援委員会	⑥家庭科
⑦視聴覚	⑲就学指導	⑦生活指導委員会	⑦体育
⑧児童会活動	⑳給食指導	⑧校務検討委員会	⑧図工
⑨教科書	㉑給食会計	⑨労働安全衛生委員会	⑨音楽
⑩クラブ	㉒清掃指導	⑩食物アレルギー検討委員会	⑩道徳
⑪委員会	㉓登校班	⑪学校運営協議会	⑪特別活動・キャリア教育
⑫図書館教育	㉔転出入		⑫外国語・外国語活動

適正な学級規模について

適正な学級規模について

議論内容

1クラスに在籍する人数について

現在の国の基準(令和7年度以降)では、

小学校 35人学級 **中学校 40人学級**

となっています。子どもたちの学びを保障し、質の高い教育を実現するためには、どのような学級規模がふさわしいと考えますか。

学級規模に関する国の動き【令和3年3月31日】

公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律の一部を改正する法律等の施行について

Society5.0 時代の到来や子供たちの多様化が一層進展するなどの状況下において、安全・安心な教育環境の下、誰一人取り残すことなく、全ての子供たちの可能性を引き出す教育へ転換し、個別最適な学びと協働的な学びを実現することが必要であることから、**一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を可能とする指導体制を整備するために、公立の小学校の学級編制の標準を、約40年ぶりに一律に引き下げることとし、具体的には、学年進行により、現行の40人から35人に段階的に引き下げる措置を講ずるものです。**

※令和3年度より2年生から段階的に引き下げる。

令和7年度に全学年が35人学級となる。

※学級編成基準・・・《1959年 50人 1964年 45人 1980年 40人》

小学校1年生は、2009年に35人学級となっている。

議論の補助資料

市独自で単学級を解消する場合の経費

6学年単学級

1年1組(35人)
2年1組(35人)
3年1組(35人)
4年1組(35人)
5年1組(35人)
6年1組(35人)



6学年2学級

1年1組(17人)	1年2組(18人)
2年1組(17人)	2年2組(18人)
3年1組(17人)	3年2組(18人)
4年1組(17人)	4年2組(18人)
5年1組(17人)	5年2組(18人)
6年1組(17人)	6年2組(18人)

教職員1人 人件費【500万円～600万円と仮定】

仮に6学年の学級規模を20人程度にした場合、6人の教職員が必要となる。

予算 500万円～600万円×6人＝**3000万円～3600万円(1年間)**

今後、その措置を続けていくと、毎年 **3000万円×学校数** が必要となる。

市内小学校で20人学級を実施した場合のクラス数

令和6年度クラス数

	35人学級	20人学級		35人学級	20人学級		35人学級	20人学級
久代小	16 ⇒ 26		多田小	17 ⇒ 23		けやき坂小	18 ⇒ 28	
加茂小	18 ⇒ 24		多田東小	18 ⇒ 30		東谷小	17 ⇒ 30	
川西小	18 ⇒ 29		緑台小	12 ⇒ 18		牧の台小	17 ⇒ 28	
桜が丘小	12 ⇒ 22		陽明小	12 ⇒ 19		北陵小	13 ⇒ 18	
川西北小	16 ⇒ 27		清和台小	7 ⇒ 13		合計	242 ⇒ 385	
明峰小	24 ⇒ 38		清和台南小	7 ⇒ 12				

教職員1人 人件費【500万円～600万円と仮定】

20人学級を実施した場合、143人の担任が必要となる。

人件費500万円と仮定しても 500万円×143人＝7億1500万円(1年間)



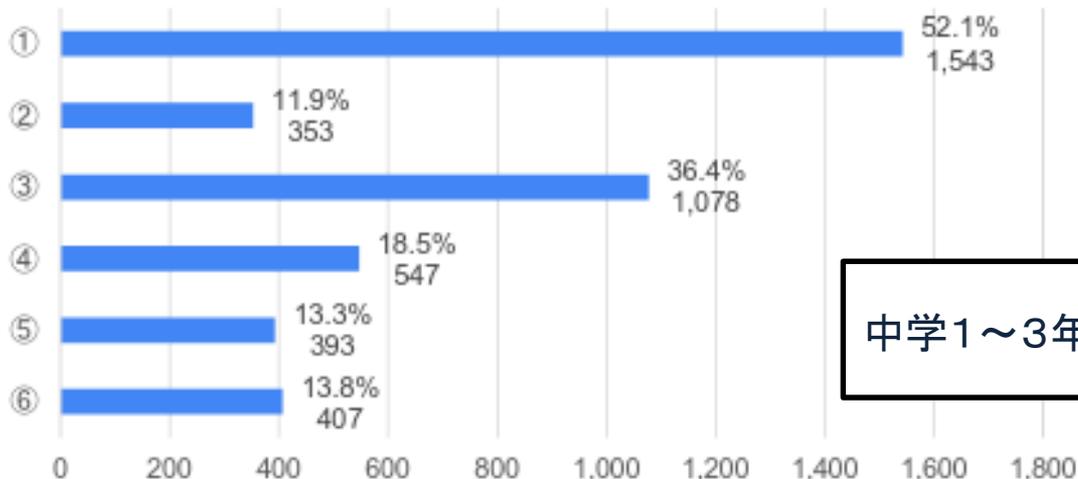
実施には、
人(教職員)
物(教室)
金(財源)
が必要になる。

中学生アンケート結果（令和5年度5月実施）

少人数授業の良いところは何ですか。（最大2つまで選択できます。）

- ① 時間をかけて、理解できるまで丁寧に教えてくれること
- ② 難しい問題に積極的にチャレンジさせてくれること
- ③ 自分の学力に合った内容を教えてくれること
- ④ 今まで以上に話し合いを活発にして、意見を表明する機会を増やしてくれること
- ⑤ 特に期待することはない
- ⑥ わからない

川西市全体



中学1～3年生 【2960人回答】